

平成29年度病害虫発生予報第1号

平成29年4月4日
愛知県

普通作物

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
イネ	いもち病 (苗いもち)	やや少ない	県全域	前年の穂いもちの発生量はやや少ない	－
ムギ	うどんこ病	平年並	県全域	3月下旬現在、調査ほ場では発生を確認していない ムギの生育は平年並	± ±
	赤さび病	平年並	県全域	3月下旬現在、調査ほ場では発生を確認していない ムギの生育は平年並	± ±
	赤かび病	平年並	県全域	4月の降水量は平年並か少ない ムギの生育は平年並	－ ±

・留意事項

ムギ赤さび病は、多発すると葉が早期に枯れ上がり、収量・品質が低下するため、発生初期から防除することが大切です。現在のところ、発生量は平年並ですが、11月上旬播種のは場では、3月末から繁茂している所で急激に発生量が増えているほ場もあります。繁茂している所を中心によく観察し、発生を確認した場合は、速やかに薬剤防除し、開花期には、薬剤防除を必ず行いましょう。

越冬世代のヒメトビウンカのイネ縞葉枯病ウイルスの保毒虫率が高くなっています。生育初期のイネ縞葉枯病ウイルス感染を防ぐため、移植栽培では育苗箱施薬、不耕起V溝直播栽培では殺虫剤の種子塗抹でヒメトビウンカを防除しましょう。詳細は3月17日発表の「平成28年度病害虫発生予察注意報第10号」を参照して下さい。

イネの温湯種子消毒を行う際は、定められた処理温度、時間を守りましょう（例：60℃、10分）。微生物農薬による種子消毒は、薬液の温度が10℃以下だと効果が劣るので注意しましょう。消毒後は病原菌による汚染がないように管理しましょう。

イネもみ枯細菌病（苗腐敗症）やイネ苗立枯細菌病は、急激な温度差やかん水むらなどの環境変化が発生を助長するので、育苗期の温度管理などに気をつけましょう。

果樹

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への 影響
ウンシュウミカン	そうか病	やや多い	県全域	越年発病葉率はやや高い 4月の降水量は平年並か少ない	＋ ±～－
ナシ	赤星病	やや多い	県全域	前年の発生量はやや多い 4月の降水量は平年並か少ない	＋ ±～－
	黒星病	やや多い	県全域	前年の発生量はやや多い 4月の降水量は平年並か少ない	＋ ±～－
モモ	せん孔細菌病	多い	県全域	前年秋期の発生量は多い 前年秋期に風を伴う降雨が多かった 4月の降水量は平年並か少ない	＋ ＋ ±～－
	灰星病 (花腐れ)	平年並	県全域	前年の果実被害発生量は平年並 4月の降水量は平年並か少ない	± ±～－
	モモハモグリガ	やや少ない	県全域	前年夏の発生量はやや少ない	－
ブドウ	黒とう病	平年並	県全域	前年の発生量は平年並 4月の降水量は平年並か少ない	± ±～－
果樹共通	カメムシ類	やや少ない	県全域	チャバネアオカメムシの越冬成虫量はやや少ない	－

・防除対策

[ウンシュウミカン・そうか病]

デランフロアブルやファンタジスタ顆粒水和剤などで防除しましょう。

[ナシ・赤星病]

スコア顆粒水和剤やフルーツセイバーなどで防除しましょう。

[ナシ・黒星病]

りん片発病芽や新梢基部病斑は見つけ次第除去し、スコア顆粒水和剤やフルーツセイバーなどで防除しましょう。

[モモ・せん孔細菌病]

発病枝は見つけ次第切り取り、マイコシールドやバリダシン液剤5などで防除しましょう。

・留意事項

落葉果樹の生育は、4月3日現在、長久手市では、モモ（白鳳）とナシ（新高）の開花は始まっていないため、昨年よりも遅い状況です。生育ステージに合わせた適期防除を心がけましょう。

フェロモントラップの誘殺状況から、ナシヒメシクイ越冬世代の成虫発生時期はおおむね平年並と予測します。成虫はこれからモモの新梢に産卵し、幼虫が芯折れを発生させます。フェロモントラップの誘殺状況を参考に適期を逃さないように防除しましょう。

果樹を加害するカメムシ類であるチャバネアオカメムシは、越冬成虫量がやや少ない状況だったため、6月までの飛来数はやや少ないと予測します。詳しくは、本日発表の「果樹カメムシ情報第1号」を参照してください。

フジコナカイガラムシの発生が多かったカキほ場では、新梢展葉期にアプロード水和剤などで防除しましょう。

野菜

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
タマネギ	べと病	多い	県全域	3月下旬の発生量は多い 4月の降水量は平年並か少ない	＋ ±～－
トマト (施設)	灰色かび病	やや少ない	県全域	3月下旬の発生量はやや少ない 4月の日照時間は平年並か多い	－ ±～－
ナス (施設)	灰色かび病	やや少ない	県全域	3月下旬の発生量はやや少ない 4月の日照時間は平年並か多い	－ ±～－
	すすかび病	平年並	県全域	3月下旬の発生量は平年並 4月の日照時間は平年並か多い	± ±～－
	ミナミキイロアザミウマ	やや少ない	県全域	3月下旬の発生量はやや少ない	－
キュウリ (施設)	べと病	やや多い	県全域	3月下旬の発生量はやや多い 4月の日照時間は平年並か多い	＋ ±～－
	うどんこ病	やや多い	県全域	3月下旬の発生量はやや多い	＋
	灰色かび病	平年並	県全域	3月下旬の発生量は平年並 4月の日照時間は平年並か多い	± ±～－
	ミナミキイロアザミウマ	やや多い	県全域	3月下旬の発生量はやや多い	＋
イチゴ (施設)	灰色かび病	少ない	県全域	3月下旬の発生量は少ない 4月の日照時間は平年並か多い	－ ±～－
	うどんこ病	平年並	県全域	3月下旬の発生量は平年並	±
	ハダニ類	やや少ない	県全域	3月下旬の発生量はやや少ない	－

・防除対策

[タマネギ・べと病]

3月3日発表の「平成28年度病害虫発生予察注意報第9号」を参照してください。

[キュウリ（施設）・べと病]

施設内が多湿にならないように、余分なかん水を避けるとともに、換気などにより適切な湿度管理を行いましょう。ザンプロDMフロアブルやゾーベックエニケードなどで防除しましょう。なお、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション防除を心がけましょう。

[キュウリ（施設）・うどんこ病]

病気が広がると防除しにくくなります。発病前にベルコートフロアブルなどを散布しましょう。発病を確認したら、速やかにガッテン乳剤やパンチョTF顆粒水和剤などで防除しましょう。なお、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション防除を心がけましょう。

〔キュウリ（施設）・ミナミキイロアザミウマ〕

プレオフロアブルやベストガード水溶剤などで防除しましょう。天敵を導入している場合は、天敵への影響を考慮し農薬を選びましょう。本種はキュウリ黄化えそ病の病原ウイルス（MYSV）を媒介するので、防除を徹底しましょう。

・留意事項

キャベツでは、コナガが発生しているほ場があります。発生ほ場は速やかに防除しましょう。また、収穫残さは本種の発生源になるので、収穫終了後は残さを速やかにすき込みましょう。

イチゴでは、ハダニ類の発生量及び発生ほ場が増加しており、多発しているほ場もあります。多発生すると防除が困難になるので、早めに防除しましょう。また、アザミウマ類が発生しているほ場があります。例年、発生量が増加する時期です。施設開口部や吸気口の付近など発生しやすい場所をよく観察し、発生を認めたら速やかに防除しましょう。天敵や訪花昆虫を放飼している場合は、それらへの影響を考慮し農薬を選びましょう。

施設では、気温の上昇に伴い、トマト黄化葉巻病（TYLCV）を媒介するタバココナジラミが増殖しやすくなります。タバココナジラミの防除を徹底し、トマト黄化葉巻病の発生を防ぎましょう。ウイルス病は、伝染環を断つことが重要です。収穫終了後は、残さを外に持ち出す前に施設を密閉してタバココナジラミを死滅させましょう。

花き

・留意事項

キク（露地）では、気温の上昇に伴い白さび病やアブラムシ類が増加するので、親株床も含めて防除しましょう。

参考

東海地方の1か月予報（名古屋地方气象台3月30日発表）

〈予想される向こう1か月の天候〉

天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が多いでしょう。

向こう1か月の平均気温は、平年並または低い確率ともに40%です。降水量は、平年並または少ない確率ともに40%です。日照時間は、平年並または多い確率ともに40%です。

週別の気温は、1週目は、平年並または低い確率ともに40%です。2週目は、平年並または低い確率ともに40%です。

〈向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率〉

〔気温〕 低い：40% 平年並：40% 高い：20%

〔降水量〕 少ない：40% 平年並：40% 多い：20%

〔日照時間〕 少ない：20% 平年並：40% 多い：40%